

さんちょう

山頂から

小野 十三郎

やま
山にのぼると

うみ てん
海は天まであがってくる。

お わかば
なだれ落ちるような若葉みどりのなか、

した
下のほうでしずかに

かっこうがないている。

かぜ ふ たか た
風に吹かれて高いところに立つと、

せかい ひろ かんが
だれでもしぜんに世界の広さを考える。

て くち
ぼくは手を口にあてて

した む さけ
なにか下のほうに向かって叫びたくなる。

ごがつ やま
五月の山は、

あか
きらきらと明るくまぶしい。

きみは、

さんちょう うえ
山頂よりも上に、

あお こ すいへいせん み
青い大きな弧をえがく水平線を、見たことがあるか。